新聞鑒定表

開成社中
中外新聞

此書一たび出て各方響應す、実に新聞の第一等にして各局の模楷とする所あり、体裁の備ると校讐の精しきハ他の及ぶ所にあらし、制令啓表の類更体に関係の文を載するハ諸新聞等の通義にして論なし、外国の事情を報る最国化を開くの甚しく間喩言戒詞を下す復大に世教に裨あり其戦事ハ多く略せり、唯横濱に出る者ハ詳訳細記して嫌疑を避す、顧ふに作者の斟酌か西洋情史髪坊の両則頗る猥褻怪誕に渉るの譏あり、然れとも巷柳客田舎漢ハ反て之を悦ぶへし、擁剣を望む者ハ一行壹朱の定價を収ハ不廉の議を免きらん歟、

開成
遠近新聞

製本の精密なる外篇に並び、弥堅外史の訳文胃腑と四肢不和の説ハ深く時弊に中れり蒸気の原縁製氷の方訣ハ亦大に世用を通利するの根柢あり、且其圖を見ハ特に信切の意あり、英国奸淫の法律「アルチスセル」諷語の両段奇なるハ乃奇なり然れとも極て醜し極て陋し京橋欄干の梟首を画くに至りてハ看官巻を掩んと欲す、囑者刊行を急を以て品格旧より損したり、

無盡蔵社
中外外篇

此挙もと中外の缺漏を補はんとす、然るに中外第九号に出せし會津侯の詩を複出せるハ、且往事に遡るの病あり、蓋中外と録を争ふて其根觝を避るに因る然る歟、剞劂の工なる装潢の美しきハ実に新聞中の第一たり、應に中外と並行れて永く相墮ざるべし、但序に新しき譯文をも同し人の手して添ふべき事を記せり、篇中一も茲に及ざるもの何ぞや、

無鳥郷社
江湖新聞

挿画新聞の名世を乗せり今ハ尓我ハ我たり、識者の嘲り恬と不措意ぞ童蒙婦幼の歓心を得て好せられハ是可なりんの、戯場遊里の評論より俳優幇間の説話まで人間萬象を網羅て編集たる小稗史那の無鳥郷裏れ主人なる者自ら夜燕の巣窠に安して敢て鵠鴻の挙を羨す然るに第六七号よりして頓に前弊を擺脱して面目を一新せり所謂翅を回谿に垂と雖も翼を澠池に奮ふ、幾んと内外新報と頡頏んかとす

無盡蔵社
公私雑報

雑報の名へを欺らず、駁雑にして奇警し所を見ぞ唯横濱の報ハ開氷る可き有り無可無不可の間に居て新報中の中立國なり、行幸の畧ハ街報株の識何ぞ表背に唐子の命の賄賂を剣出さんとするを啓す、并に贓を發し賄を衒ふるの捷逕を開けり、此法若し行ハ從ハ世を利する少からん惜ひ哉一人の嘱託者なるを閲うれ

同社
近刻
中外前集

京都
太政官日誌

大阪
行在所日誌

語に曰く其位に在らされバ其政を謀らず、懸すくも畏しきハ王政復古の美事草莱の輩て私議する所に非ず、

史に云ふ不図も今日漢官の威儀を見と尊きも余りある、天皇幸行の盛挙父老の最欽慕するところなり、

海軍會社
内外新報

中外に次て出少しく体裁を変へ戦争の事歴を詳かにし、以下の新聞等皆その範囲を出ず、中外ハ雅に過ぎ江湖藻塩草ハ俗に失へり、此書雅俗両宜と謂可し、戦を叙る多く実状を拾ふ、故に信据すべし傳聞の繆少からん歟、剞刻の速なると頒行の適きとハ真人を驚かし、因て書訛刋誤あるを致すも唯報告る所大抵内国の事柄外国の談話ハ落々晨星なり内外の題名に副ざれ、巻末に其の戦争又其の落城某号に記せる文により次篇殊に不詳明人をして隔靴の憾あらしむ、忌諱により之を刪る乎、抑漢として聞く所なき乎

海軍
日々新聞

落後蜚充し一唱作盧諸方の新聞を傾壓んとするの勢あり、唯號数未だ七八輯に充ざるを以ての故に其全体を悉すに足ず内外と均しく海軍の撰に出たるを以て其体段畧相同じ書法着實にして絶て婉委の文なし新聞の公法を得に庶幾し、第八輯貨幣の新令を録し大判小判の畫を出せり、新聞の変例なれども標記の圖階形之が徴をなせり、

海軍會社
内外前記

起筆大君の辞職に始む、是作者大識見の處 皇國の変革実に是にかゝりて端を開く、此篇原内外の為に設て而して孤行するも可なり、唯往事を追記して時日を順序ならしめて闕典に似たれども各方の雑報一時に總括し難し得るに隨て筆記せば新聞なれハ害なし、但事陳腐に屬するを以て新を競ひて馳騁なることを能はず、

横濱新報
もしほ草

「ウエンリード」氏の真著なるか、將奸商の名を冒して作る者か、記事露骨にして曾て禁忌を憚らず、姓氏隊名を記す、亦極めて直截なり且采択精しころの差誤するを致さ、戦ヲ歴叙する大に街頭講師の風習あり彷彿として机上の扇子に拍くの意あるを聴く其醜態噴飯に堪たり、浪花の風謡騈作の俳句の如き此等は悪言を収録す抑何の謂ぞや萬国公法果して如此例ありや吾是を詰問んと欲す、

撒兵社中
新聞事畧

撒兵の社中開成海軍の會社に傚て新聞の塁を築んとす、何ぞ両局既刻の建白書を摽竊するや、是一号にして售れざる所以なり

海軍會社
内外別集

此特に京師の列職を挙る耳、且外篇第三号と抵觸あり故に措て論せず、

東都

白眼居士撰